

交流事業報告

橋本財団 松田・坂入

2024年1月18日

Contents

1 これまでの活動振り返り

2 参加者の声（聞き取り調査報告）

3 国際交流の意義

4 今後の交流会について

参加者の声（聞き取り調査報告）

2024.12.19-20 5名の外国人介護職員へ聞き取り

※年齢や個人的なことがわかる情報は極力省いています

<岡山/日本に来た理由> 天気が良い・災害がない / 静か / 便利 / 口コミ / 給料

「学校からこの仕事どうかな？って言われたときに（岡山のことを）調べて、岡山は天気もいいし地震とか津波とかあんまり心配しないでも大丈夫だから行った方がいいと思って。あまり寒くないし。」

「（今の仕事は）Facebookで見つけて来ました。ミャンマー人はだいたいFacebookを使うから、募集とかも全部今Facebookに載ってるんですよ。外国人のための仕事探しというサイトがあって、そこに募集中とかやりたい仕事とか行きたい場所とかはちゃんと載ってるから。自分でも仕事探してますよとか、いい仕事あったら教えてって言ったら教えてくれる。」

「日本は、給料はミャンマーより高い。（給料が）全然違う。」

<今の仕事について>

岡山弁での会話と漢字の読みが大変 / 日本語を話す機会がない

(大変なこと)

「日本語、岡山弁とか、何しゃべってるかわからない。」

「介護の勉強は、テストが、病気の名前とか専門的なことが漢字だから（大変）。」

「やっぱり漢字。申し送りの時とかはgoogleで調べて書いてる。読むのが難しい。」

(日本語を話す機会)

「忙しいからあまりないんですよ。前は食事の時とか少し離れて話す機会はあったんですけど、今は休憩時間もばらばらになっちゃって。会うとしても20分くらいはあるんですけどご飯食べる時間だからそんなに話さない。」

「介護は日本語を話すイメージがあって転職してきたが、イメージとは違って働いてる時に日本語を話す機会がない。」

<コミュニティの有無について>

ともに日本に来たメンバーが日本各地に散在

「ミャンマーと一緒に勉強した友達が、色々なところに。遠いから。」

「私と一緒に日本に来た人とかとはありますね。みんな大阪とか京都とか東京とか都会に行っていて、来てくださいって言われるけど..都会はちょっと。」

→ 岡山でのコミュニティの不足

<地域の人との関わりの有無について>

関わりはまったくない / どのような人がいるかわからない / 寂しい / 話す機会がない

「地域の人はどういう人がいるのかわからない。年上の人もあるし小さな子もいるし、どういう風な人がいるのかわからないから。」

「仕事してる人が多いから行き帰りの時間が違うからあまり会わないんですよ。話す機会はないんです。いつ帰ってきたのかいつ出て行ったのかわからない。行き帰りとかは自転車で歩いてるおばあちゃんおじいちゃんに挨拶くらいは、できるんですけど、時間かけて話とかはできてない。」

「（ミャンマーでは地域の人とよく）話します。ミャンマーは寂しくない感じがする。1人でいても周りに人がいるって感じるけど、日本は一緒に住んでいるけど人がいないと感じています。ミャンマーは近所の人に色々話して、こっちに住んでいますと挨拶して周りの人も見守ってくれる文化ですけど、（日本は）誰かと会うけどこっちに住んでいるかどうかはわからない。」

「みんな忙しそう。だから私から声かけようとしても迷惑かなとか思うし。」

<これまでの交流会について>

楽しい / 同世代との会話で日本語の勉強になる / 初めての経験

「楽しかったです。みんなで一緒に料理するとか、色々話し合ってた楽しかったです。ただ、（前回のミャンマー料理partyの時は）ミャンマーの子たちと話してて他の国の人とあまり話すチャンスがなかったです。」

「前のベトナム料理の時は、遅出（仕事）とかで行けなかったから、ずっと行きたかったんです。ミャンマー料理の時は夜勤明けで寝ずに行きました（笑）。」

「今の交流会では自分の趣味とか好きなものとかを話したりするのが（普段使う日本語と）ちょっと違うかなと思って。友達ができるのと日本語しゃべれるのがいいなと思ってます。」

「普段職場で日本人職員や利用者とも日本語を話す機会がないので、日本語を話せて勉強になる。」

<今後の交流会について> 旅行 / 国の文化を知る遊び / より深いコミュニケーション /
地域ボランティア・イベントへの参加 / 日本料理体験

「日本人ともっとコミュニケーションを取りたい、話したいので、旅行するとか日本の習慣とか聞きたい。」

「子どもから大人までみんな知ってる、国によって遊び方がある。それをやったらみんな仲良くなって楽しいかなと思う。日本のコマみたいなのがミャンマーにもあって、ミャンマーの国の日みたいな、1月4日に色々遊んだりする日があって、その時に遊ぶ。」

(地域の人たちとの交流について)

「地域のイベントに参加できるとか、そういうのもやってみたいですね。ボランティアとしてとか活動とかもしてみたいし。色々な地域とかで。そういう地域の人とかも話してみたい、日本のこと、地域のことを知りたいなと思っています。」

「日本の料理。日本の料理を作って、何をいれてるか教えて（もらって）、やりたいです。」

<岡山/日本への定住について>

定住意思/安全/生活への適応

「今はミャンマーは戦争とか色々大変だから（帰れない）。日本が安全だから。10年くらいは（住みたい）。」

「住みたいですね。1番（の理由）は今ミャンマーの状況もまだ悪いし、今日本で5年目になるからちょっと慣れてていいなーというのも感じてきてて、こっちにもっと住みたいなと思って。」

まとめ

- 💡 コミュニティの不足と日本語を話す機会の不足
- 💡 地域の人との関わりはまったくなく、お互いに「顔の見えない」存在
- 💡 交流会は同世代との出合いや日本語を話す機会の場、好きなことを話せる楽しい場となっている
- 💡 今後の交流会では旅行やゲームなどでより深いコミュニケーション
- 💡 地域の人とも関わりたい意思、地域社会への参加意欲

ホスト（地域社会・企業）から見た国際交流の意義

✿ 技能実習生は地域社会において可視化されにくい存在。

彼らがどのように働いているのか、どのような生活を営んでいるのか、そもそもなぜ彼・彼女らが来日することになったのかなど、ホスト社会のほとんどの人々にとっては、その実態を知る機会すら皆無に等しい。

参考：外国人技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築
—岡山県美作市における地域再生の試み—（二階堂裕子 2019）

ホスト（地域社会・企業）からみた国際交流の意義

✿ 地域社会においてなぜ認知されにくいのか？

▶▶▶ 監理団体および企業に「日本での滞在期間は仕事に専念し、不要なトラブルを生じさせることなく帰国してほしい」という共通意識→生活に対する制約が生じる。

▶▶▶ 日本での滞在が限定されており相互に安定した関係を築くことは難しく、コミュニティの基盤となるネットワークの形成が困難となりがち。

▶▶▶ 日常的に活用しうる移動手段は公共交通機関ではなく自転車に限られる場合がほとんどであり、互いに顔の見える関係を構築することは至難の業。

参考：外国人技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築
—岡山県美作市における地域再生の試み—（二階堂裕子 2019）

ホスト（地域社会・企業）からみた国際交流の意義

✿ 外国人労働者だけでなく企業の孤立化

技能実習生を受け入れている企業が、技能実習生にとって望ましい生活環境の整備や、技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築を図ろうとしても、それらにともなうさまざまなコスト負担が過重であり、打つ手がないうまま、困難に陥る。

参考：外国人技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築
—岡山県美作市における地域再生の試み—（二階堂裕子 2019）

ホスト（地域社会・企業）からみた国際交流の意義


＜美作市の事例＞ 公民協働組織である美作日越友好協会による交流活動の促進


ベトナム人嘱託職員が講師を務めるベトナム語市民講座の主催、技能実習生を招いて市内の名所をめぐるバスツアーの開催、地域のまつりへの協働出店

➡ 日本人住民にベトナム人の存在を認知してもらい、ベトナムの文化に対して親しみを持ってもらう機会であると同時に、技能実習生が多く日本人住民と接触し、社会参加を果たす機会となっている。

参考：外国人技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築
—岡山県美作市における地域再生の試み—（二階堂裕子 2019）

ホスト（地域社会・企業）からみた国際交流の意義

 祭りやスポーツイベントへの参加を通して、技能実習生が豊かな経験と知識を得る機会となり、また、企業は技能実習生の存在を認識してもらい、地域住民の理解を得ることで、存続と発展を図ることができる。よって、技能実習生と地域住民が交流し、良好な関係を築くための場と機会は、必要不可欠である。

 美作市にとって、技能実習生の受け入れは、個別の企業における雇用対策にとどまるのではなく、自治体の産業活性化政策であり、かつ人口増加政策でもある。また、技能実習生や就労先企業の孤立を防ぐ方策にもなる。

参考：外国人技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築
—岡山県美作市における地域再生の試み—（二階堂裕子 2019）

当事者からみた国際交流の意義

✿ 国際交流における当事者視点の欠如

<よく挙げられる国際交流のメリット>

異文化理解

地域・企業の活性化

国際化を担う人材育成

➡ 受け入れ側のメリットが中心

➡ 外国人本人の意思や生活の質的向上といった視点が欠如

交流の対象



共生する存在



今回の聞き取りの結果、生活の楽しみが増え交流意欲があることがわかる。

当事者からみた国際交流の意義

✿ 孤立化防止 = 困窮化した際のリスク防止

「近年は日本人も同様に地域との関わりは減少しており、社会参加も少ない」

孤立化自体ではなく、その先のリスクに関する認識の不足



支援の不足

情報アクセス問題

外国人が孤立化した場合、生活上、社会上の困難に陥った際には日本人よりも数倍近いリスクにさらされる可能性がある。

※ この点は受け入れ企業や地域住民だけでなく、当事者も認識・想定しにくい

3

今後の交流会について

✿ 3者ともにそれぞれ交流のメリットがあり、交流事業を今後も継続していきたい

観点	メリット	企画主体
受け入れ企業	<ul style="list-style-type: none">・ 職場環境に馴染むため・ 仕事上の悩みや課題をシェア	敬友会
地域社会	<ul style="list-style-type: none">・ 地域に馴染み存在を知ってもらう→可視化・ 偏見の緩和・ 地域社会の活性化	地域 (財団で地域イベントの告知・参加)
当事者	<ul style="list-style-type: none">・ 日本文化を知る、日本語を学ぶ・ 同世代や似た環境の人々との交流によるストレス緩和、生活の質向上	橋本財団・ISA (月1度程度開催)